

IBM Cognos Express
バージョン 10.1.0

新機能

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、7ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

このドキュメントは IBM Cognos Express バージョン 10.1.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。このドキュメントの最新バージョンに関する情報は、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) を参照してください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Express
Version 10.1.0
New Features

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.5

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2009, 2012.

目次

はじめに	v
Cognos Express の新機能	1
全般的な新機能	1
Cognos Insight	1
Cognos Business Insight	1
Cognos Mobile	1
Cognos Analytic Server Operations Console	2
新規データ・ソースのサポート	2
動的クエリー・モード	3
拡張された 64 ビット・サポート	3
新規サンプル	3
新たな言語サポート	3
Cognos Express Planner の新機能	4
Cognos Express Performance Modeler	4
Cognos Express Reporter の新機能	4
Cognos Business Insight Advanced	5
特記事項	7
索引	11

はじめに

本書では、IBM® Cognos® Express® の新機能をわかりやすく説明します。新機能や変更された機能の詳細については、それぞれに該当する製品のユーザー・ガイドを参照してください。

対象者

このガイドは、IT 管理者、データ・モデル作成者、レポート作成者向けに作成されています。このガイドを効率的に使用するには、組織内の役割に応じて、次の項目の 1 つ以上を理解している必要があります。

- 組織の既存のサーバー環境とセキュリティー・インフラストラクチャー
- 会社のビジネス要件
- データベースおよびデータウェアハウスの概念
- セキュリティーの概念

情報の検索

IBM Cognos 製品のマニュアルを Web で入手するには、IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。各言語版のマニュアルもすべて用意されています。リリース・ノートは、インフォメーション・センターに直接公開されます。最新の Technote や APAR へのリンクも掲載されています。

さらに、IBM Cognos の製品ディスクには、製品のリリース・ノートとインストール・ガイドが PDF 形式で収録されています。

ユーザー補助機能

現在この製品では、ユーザー補助機能はサポートされていません。ユーザー補助機能とは、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体の不自由な方に製品をご使用いただけるように支援する機能のことです。

将来の見通しに関する記述

このマニュアルでは、本製品の現在の機能について説明しています。一部の内容で、現在利用できない項目について言及している可能性があります。これは、将来利用できるようになることを意味するものではありません。そのような内容は、資料、コード、または機能の提供に向けた取り組み、確約、あるいは法律上の義務を意味するものではありません。機能の開発、リリース、時期や機能性は IBM の独自の決定によるものとします。

サンプルに関する特記事項

Great Outdoors 社、GO 営業、Great Outdoors 名の変形 (GO Contributor や GO 新規店など) およびプランニング・サンプルは、IBM および IBM 顧客のサンプル・アプリケーションを開発するために使用されたサンプル・データの架空の企業運営

を表しています。これらの架空のレコードには、販売取引、製品配布、財務、および人事に関するサンプル・データが含まれています。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。また、他のサンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが含まれており、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれ各社の商標です。許可なしで複製することは禁止されています。

Cognos Express の新機能

IBM Cognos Express 10.1.0 は、いくつかの新機能を提供します。

このガイドでは、現行のリリースの新機能と変更された機能について説明します。これは、複数のコンポーネントに影響を与える汎用の新機能と、特定のコンポーネントに影響を与える新機能に分けられます。

全般的な新機能

以下の新機能により、IBM Cognos Express の複数のコンポーネントが改善されています。

Cognos Insight

IBM Cognos Insight は、IBM Cognos Express Planner および IBM Cognos Express Advisor の一部として入手できます。

Cognos Insight を使用して管理ワークスペースを作成することにより、データの分析やシナリオの検討が可能になり、決定に関与できるようになります。このワークスペースを使用し、結果を対話式の管理ワークスペースとして基幹業務管理者に通知します。Cognos Insight は書き戻しをサポートしているので、これらのワークスペースを使用して管理ターゲット、コミットメント、および予測を収集し、集約することもできます。

Cognos Business Insight

IBM Cognos Express 内で IBM Cognos Business Insight を使用してワークスペースを作成できるようになりました。

Cognos Business Insight は Web ベースのツールです。このツールにより、IBM Cognos コンテンツと外部データ・ソースを使用して、洞察を与え協調的な意思決定を容易にする高度な対話式ワークスペースを構築できます。Cognos Business Insight について詳しくは、「*IBM Cognos Express Business Insight ユーザー・ガイド*」を参照してください。

Cognos Mobile

IBM Cognos Mobile により、IBM Cognos Express が携帯機器でも使用できるようになりました。

Cognos Mobile の高機能なクライアントでは、IBM Cognos Report Authoring や IBM Cognos Business Insight などのツールによって個々のユーザーの携帯機器に作成された Cognos Express のレポート、ダッシュボード、および分析を確認することができます。Cognos Mobile は、タイムリーで有益かつインタラクティブな情報を配信することにより、モバイル・ユーザーがどこにいても、意思決定処理を支援します。Cognos Mobile は、受信した各 Cognos Express レポートを処理して、モバ

イルに適した形式にレンダリングします。Cognos Mobile は、Cognos Express のプロンプト機能およびスケジューリング・メカニズムを使用して、カスタマイズしたレポートをタイムリーに配信します。

Cognos Analytic Server Operations Console

IBM Cognos Express に、IBM Cognos Analytic Server (ICAS) Operations Console が装備されました。

ICAS Operations Console は、ICAS 管理者がログを生成したり、複数のサーバー・アクティビティをモニターしたり、ICAS インスタンスを管理したりするために使用できるコンポーネントです。

ICAS Operations Console は、TM1Top ユーティリティの提供する基本的なサーバー・モニター機能のほか、以下のようないくつかの重要な追加機能を提供します。

- ICAS Operations Console では、複数の ICAS インスタンスを同時にモニターできます。
- ヘルス機能を使用すると、サーバーの現在の状態について即時にフィードバックを得られます。
- フィルター操作は、複数サーバーの特定の状態を強調表示するために役立ちます。
- ソート操作により、管理者は特定の状態にあるサーバーをすぐに識別できます。
- ICAS Operations Console は「スケジュールされたログ記録」を使用して、オフラインでアクティビティをモニターできます。

ツールバーの「並べて表示」オプションを使用して ICAS Operations Console から提供された表示を編成したり、各種の属性およびサーバーの状態を使用してレポートをカスタマイズしたりできます。また、ICAS Operations Console を使用して、処理を簡単に識別し、終了することができます。ICAS Operations Console は標準インストールの一部としてインストールされ、Web ブラウザーから実行されます。

新規データ・ソースのサポート

IBM Cognos Express は、いくつかの新規データ・ソースをサポートします。

以下の新規データ・ソースが、IBM Cognos Express でサポートされるようになりました。

- Informix® IDS 11.7
- Microsoft SQL Server 2008 R2
- Oracle 11g R2
- Sybase Adaptive Server Enterprise 15.0.3
- Sybase Adaptive Server Enterprise 15.5
- IBM Cognos TM1® 10.1

サポートされている環境については、ソフトウェア環境情報 (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27014782>) を参照してください。

動的クエリー・モード

IBM Cognos Express には、動的クエリー・モードと呼ばれる強化された Java ベースのクエリー実行モードが装備されました。

Cognos Express の新しいアプリケーションに対して、動的クエリー・モードが推奨されます。動的クエリー・モードでは、改善されたクエリー実行手法によりクエリーおよびデータ・ソースが最適化されており、複雑さを増すクエリー、多量のデータ、および適時性への期待に対応できます。さらに、メモリー内キャッシュ機能などの高度なクエリー機能も提供されており、ユーザーのセキュリティ権限を維持しつつ、クエリーの計画、実行、結果を向上します。

拡張された 64 ビット・サポート

IBM Cognos Express では、64 ビット・モードで Java を実行するようになりました。

拡張されたサポートにより、Content Manager や動的クエリー・エンジンなどの Cognos Express コンポーネントで、追加のサーバー・メモリーを利用できるようになりました。

新規サンプル

IBM Cognos Business Intelligence、IBM Cognos TM1、および IBM Cognos Insight から組み込まれる新機能に関する新しいサンプルがいくつか提供されています。

IBM Cognos Express Reporter に、アクティブ・レポートのサンプルが新たに組み込まれました。アクティブ・レポートは従来の IBM Cognos レポートの改良版です。インタラクティブな動作が組み込まれており、使いやすいインターフェースをエンド・ユーザーに提供します。

Cognos Express に、プランニング機能のデモンストレーションに役立つ GO Contributor および GO Stores のサンプルが新たに組み込まれました。Cognos Express に組み込まれたこれらの新規サンプルは、他のサンプル同様 20 カ国語で利用可能です。

Cognos Insight にも、20 カ国語のサンプルが付属しています。

サンプルのインストール方法については、「*IBM Cognos Express の管理*」を参照してください。サンプルを使用するには、すべての Cognos Express 製品をインストールする必要がある点に注意してください。

新たな言語サポート

IBM Cognos Express では、新たに 7 言語をサポートします。

IBM Cognos Express Manager および IBM Cognos Express Advisor は、以下の言語で使用できるようになりました。

- クロアチア語
- チェコ語
- ハンガリー語
- ポーランド語

- ロシア語
- ルーマニア語
- トルコ語

Cognos Express Planner の新機能

IBM Cognos Express Planner では、次の新機能を使用できます。

Cognos Express Performance Modeler

IBM Cognos Express Planner Administrator が IBM Cognos Express Performance Modeler に組み込まれました。Cognos Express Planner Administrator は、独立したコンポーネントではなくなりました。

アプリケーションは、ディメンション、キューブ、およびリンクを含むモデルに基づいています。Cognos Express Performance Modeler を使用して、それらのアプリケーションの管理、セキュリティの割り当て、およびワークフローの確立を行うこともできます。

ディメンション、キューブ、およびリンク・オブジェクトを含むモデルを作成します。このモデルには、アプリケーションの作成に必要なオブジェクトが含まれます。数式およびリンクのロジックから、規則およびフィーダー・スクリプトを作成できます。規則によってデータのフォーマットと表示形式が決まり、それを操作することもできます。生成される規則を使用するだけでなく、手動で規則を作成することもできます。データをインポートし、TurboIntegrator プロセスを作成することにより、データをアプリケーションにロードします。

Cognos Express Planner Applications で使用するアプリケーションを、モデルに含まれるオブジェクトに基づいて作成します。モデル内に存在するディメンションに基づいてキューブを作成します。リンクを使って、キューブ間の接続を作成します。ビューをアプリケーションに組み込み、エンド・ユーザーに提示する方法を定義します。ワークフローをセットアップして、作成者がアプリケーションと対話する方法を決定します。アプリケーションのデフォルトの表示形式を定義します (使用するレイアウトや言語を含む)。グループに基づいてセキュリティをセットアップし、グループ・メンバーがアプリケーション内で取ることのできるアクションを定義します。

管理者として、既存のアプリケーションを変更できます。例えば、モデル・オブジェクトを更新したり、ユーザーの追加および削除を行ったり、アクセス設定を変更したりできます。データおよびメタデータのインポートなどの、ランタイム・キューブの更新を管理することもできます。承認階層をセットアップする前に、アプリケーションをデプロイします。

Cognos Express Performance Modeler について詳しくは、「*IBM Cognos TMI Performance Modeler ユーザー・ガイド*」を参照してください。

Cognos Express Reporter の新機能

IBM Cognos Express Reporter では、次の新機能を使用できます。

Cognos Business Insight Advanced

IBM Cognos Express 内で IBM Cognos Business Insight Advanced を使用して高機能なレポートを作成できるようになりました。

Cognos Business Insight Advanced は、レポートの作成とデータの分析に使用される Web ベースのツールです。このユーザー・インターフェースにより、ビジネス・ユーザーは各自のビジネスの状況を適切に把握できます。Business Insight Advanced では、リレーショナル・データ・ソースまたはディメンション・データ・ソースを使用してレポートを作成し、データをリスト、クロス集計、およびグラフに表示することができます。また、独自の外部データ・ソースを使用することもできます。Cognos Business Insight Advanced について詳しくは、「*IBM Cognos Express Reporter Business Insight Advanced* ユーザー・ガイド」を参照してください。

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr
Ottawa, ON K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、 Express、TM1、および Cognos は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の Copyright and trademark information をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

クエリーの最適化 3

携帯

機器 1

携帯電話 1

スマートフォン 1

レポート 1

言語 3

[サ行]

サーバー管理 2

サンプル 3

新機能

一般 1

Cognos Express Planner の 4

Cognos Express Reporter の 5

[タ行]

対象者 v

データ・ソース 2

動的クエリー・モード 3

[ラ行]

レポート作成 5

[ワ行]

ワークスペース 1

[数字]

64 ビットのサポート 3

C

Cognos Analytic Server Operations Console 2

Cognos Business Insight 1

Cognos Business Insight Advanced 5

Cognos Express Performance Modeler 4

Cognos Express Planner 4

Cognos Express Planner Administrator 4

Cognos Insight 1

Cognos Mobile 1

I

ICAS 2